

氏名	和田 めぐみ
学位の種類	修士(看護学)
学位記番号	修士 第 206 号
学位授与年月日	平成 28 年 3 月 10 日
学位論文題目	病棟に勤務する非正規雇用看護師の活用実態

論 文 内 容 要 旨

※整理番号	211	(ふりがな) 氏 名	お だ 和 田 め ぐ み
修士論文題目	病棟に勤務する非正規雇用看護師の活用実態		
<p>目的 本研究の目的は、増加する非正規雇用看護師の実態調査を行い、課題を明らかにすることで非正規雇用看護師の有効な人的資源活用を推進するための一助とする。</p> <p>方法 日本看護協会の WLB ワークショップ事業参加施設（WLB を現場に普及・定着させるために、日本看護協会と都道府県看護協会とが協働して実施する事業）で、厚労省が定義している 500 床未満の小中病院の病棟に勤務する非正規雇用看護師を対象に調査票を郵送配布、回収した。また比較群として病棟に勤務する正規雇用看護師、病棟看護管理者も対象に調査票を郵送配布し回収した。</p> <p>結果 研究協力の同意が得られた 37 病院の 20～40 歳台の非正規雇用看護師（以下非正規雇用）及び正規雇用看護師（以下正規雇用）、非正規雇用を病棟で管理している看護管理者の 1073 名に配布した。非正規雇用 122 名、正規雇用 280 名、看護管理者 76 名の 478 名回収した（回収率 44.5%）。そのうち「年齢」「看護体制」「所属する非正規雇用看護師の人数」などが対象外のものを除外した非正規雇用 110 名、正規雇用 242 名、看護管理者 64 名の 415 名（有効回答率 86.8%）を分析対象とした。非正規雇用看護師は、平均年齢 37 歳（SD=5.7）、既婚で子供がいるものが 8 割程度と高く、他病院で正規雇用として就業し、非正規雇用としても 3～4 年の経験を積んでおり一般的には中堅看護師に該当し即戦力となる人材であった。非正規雇用の 3 割程度がフルタイム週 5 日で就業継続していた。非正規雇用の業務内容については、正規雇用の補助的な業務を行う一方、正規雇用と同一の業務を行っている現状があり業務内容の二極化が明らかになった。非正規雇用看護師の仕事に関する思い、病棟看護管理者の非正規雇用看護師の活用実態について自由記載で回答を得、393 のコード、58 のサブカテゴリ、29 のカテゴリーを抽出した。</p> <p>考察 非正規雇用看護師は子育て等のライフイベントにより非正規雇用という選択を自らしており家庭に負担のかからない程度でできる事をしたいと思っている。時間外の仕事などに加え新人指導などの指導的役割や他職種との連携など部署を超えた業務や役割について負担を感じている。また、同世代の正規雇用がキャリアアップする姿を目の当たりにすることで、専門職としてキャリア形成ができずにいる自分の現状に葛藤を抱えながらも正規雇用のサポート的役割に徹している。病棟では慢性的な人員不足に対応するため病棟への非正規雇用看護師の配置が行われているが、雇用形態を優先して活用して欲しい非正規雇用と非正規雇用のキャリアを優先して活用したい看護管理者の 2 者間で「非正規雇用」の認識の乖離が見られることが示唆された。</p> <p>結論 看護師の需要と供給において、今後ますます潜在看護師などの再雇用促進が見込まれる。しかし、看護師の供給が充足されても、看護の質の確保という意味では、多様な雇用形態で働く看護職員に対しても教育支援などの人的資源活用は看護管理者に必要な能力と言える。また、本研究において非正規雇用看護師と病棟看護管理者の間に「非正規雇用」の認識の乖離が見られることが示唆された。看護管理者は、双方が同じ認識のもとで個々が望む就業を支援することが必要であると考え非正規雇用という雇用形態についての理解を深めていくことが課題である。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度)
2. ※印の欄には記入しないこと。